

令和6年度第1回斜里町総合教育会議議事録

I 開催日時 令和6年9月25日(水)

開会 午後4時15分

閉会 午後5時50分

II 開催場所 斜里町役場 2階 応接室

III 出席者

【構成員】

斜里町長 山内浩彰

斜里町教育委員会

教育長 岡田秀明

職務代理者 長谷川宏文

委員 門田眞由美

委員 佐々木王佳

委員 畑谷あかね

【事務局】

総務部長 増田泰

教育部長 菊池勲

民生部長 高橋佳宏

企画総務課長 伊藤智哉

学校教育課長 鹿野美生子

公民館長 馬場務

住民生活課長 丸子直樹

学校教育課(指導主事) 大谷展生

IV 内容

1 開会

2 町長あいさつ(要旨)

◆本日の議題については、斜里町の児童福祉事業についてということで、先般の自治会連合会との意見交換の中でも様々な課題が出された。地域と自治体との関連性の中で子どもたちをどのように育てていくか?また、地域においては子どもたちがいない地域もある。このような状況の中で自治会活動との関りが非常に大きな課題として挙げられた。

- ◆多様化した時代の中で、地域としての非常に難しい課題があると思うが、第7次斜里町総合計画における教育分野を踏まえながら、皆様のご意見をお伺いしたい。

3 意見交換

「斜里町の児童福祉事業に関する現状と今後について」

■増田総務部長

- ✓ 自治会連合会から、「連合会内に組織されている児童福祉部会（子ども会育連協）の活動について、人材不足のため自治会単位での活動はとても難しく、実態としては単位自治会からの選出役員ではなく、一元化される前から携わっている人が中心となって活動を行っている状況である。これらの実態を踏まえ、児童福祉事業は、単位自治会ごとの取り組みではなく、学校区単位での取り組みとし、教育委員会が担当するのが望ましい。町としての『社会教育』、『児童福祉』の考え方ははっきりして頂き、それを受けて自治会連合会として今後どうするか検討したい。これらの課題について、教育委員会議や総合教育会議で協議して頂きたい。」との意見があったため、今回の総合教育会議での議題とし意見交換することとなった。

■菊池教育部長

- ✓ 総務部長の説明のとおり、自治会連合会から、「これからの子ども会の活動は学校区単位で取り組み、教育委員会が担当することが望ましい。そして、町としての社会教育の考え方や児童福祉の考え方について明確にし、それを受けて自治会として今後どうするか検討したい」とボールを投げられている状態。
- ✓ そして、これらの課題について、「教育委員会議や総合教育会議で協議して頂きたい」との意見があった。
- ✓ 自治会連合会への回答をお示ししているので、この回答案についてもご意見を頂きたい。

■高橋民生部長

- ✓ 児童福祉の考え方について、児童福祉の子どもに対する支援については、家庭内の経済対策について支援を行っており、直近では、医療費の無償化や保育園給食費の無償化などの取り組みを進めている。
- ✓ 自治会活動の考え方について、子ども会関係の活動は自治会活動の根幹。
- ✓ 少子化の影響により、子どもが少なく活動が停滞していることが悩みでもあると思う。
- ✓ 子ども達のために行政が取り組んでいること、また、自治会や他団体が取り組んでいること、これらの棲み分けの部分在今后どう進めていくべきかという点についてのご意見を委員の皆様にお伺いしたい。

■長谷川委員長

- ✓ 今回の資料を見たり、また、説明を聞いた限り、自治会連合会役員からは、今回の児童福祉に限らず、自治会活動そのものが役員の担い手不足のため難しいという意見だと思う。
- ✓ 自治会連合会の活動が大変だからではなくて、子どもたちのために必要な事業は何かが大事。

■岡田教育長

- ✓ そのとおりで、既存組織の人手不足への対応をどうするかではなく、子どもたちのためにどんな事業を残していくべきか、という視点で考えることが必要。

■増田総務部長

- ✓ 教育委員会や民生部で行っている事業、また、以前から自治会単位や地域で取り組んでいた事業なども含め、時代の変化の中で、また、地域の状態も変わっていく中で、子どもたちのために抜けている事業などについて意見を伺いたい。

■岡田教育長

- ✓ 例えば、子ども達にとって、かつては豊かな活動や体験などがあったのに、今はなくなって残念だとか、この仕組みはととてもよかったなどのご意見はありますか？

■佐々木委員

- ✓ 以前は、子育て支援センター主催でゆめの森公園への遠足などがあった。これは今はやっていない。
- ✓ また、運動会も午前中で終了し、家族でお弁当を食べる機会がなくなった。
- ✓ 当時は親がたくさん作ってくれて、それを食べるのがとても楽しみであったが、そういう経験は今の子ども達にはない。

■岡田教育長

- ✓ 運動会については、午前中で終了となって助かるという声が多くあるのも実態。
- ✓ 子どもたちにとっては、午後もあってお弁当もあった方が喜ぶが、それは負担と考える親が多いようだ。

■佐々木委員

- ✓ 時代の変化なのかもしれないが、私は、1年に1回ぐらいはお弁当を作ることぐらいは頑張ろうよと思うタイプなので、寂しく感じる。

■山内町長

- ✓ 組織のことや地域の関わりなど、そういった部分が初期化するような時期に来たような気がする。
- ✓ 小手先による、組織の再編や、役割分担の見直しなどではもう立ち行かなくなってしまったと思う。

■増田総務部長

- ✓ おそらく既存の仕組み自体が時代により大きく変化する必要があり、初期化や再構築が必要。
- ✓ 担い手の固定化が、自治会や子ども会をはじめ、それ以外の様々な活動でも起きていて、担い手方が疲弊している。
- ✓ 地域の繋がり希薄化など、これまで活動を支えていたものが変化してきている。

■門田委員

- ✓ 本日の資料で、連合会役員からのご意見等の内容を見ると、「連合会としては、もうできないから行政でやってください。」ということではなくて、「私たち連合会役員は、どうしたらいいかわからなくて困っていて、役場の方から何か方針のようなものが示されれば、自分たちで考えたい」というふうに読み取れる。
- ✓ これはどこの組織にもあると思う。
- ✓ 問題はそれぞれの現場で起きているので、担当者たちはその現場を円滑にしていきたいと必死だと思う。
- ✓ 運営する側はとても難しい。今回の自治会連合会役員の見解も、役場に頼って、なんとかしてくれませんかという声のように読み取れる。
- ✓ 自治会も、子どもたちのことを考えて、何とかしたいと思っているが、でも難しいんだよという声であると感じる。

■増田総務部長

- ✓ ニーズが多様になってきて、それに合わせることを求められる機会が多くなっており、役員は余計に疲弊して担い手がいなくなっているということだと思う。

■山内町長

- ✓ やっぱり、親の教育も必要なのでは？

■岡田教育長

- ✓ 学校教育、社会教育、もうひとつが家庭教育。今は家庭教育の質の向上策まで行政に求められる時代になっている。
- ✓ 第7次総合計画の策定においても、家庭教育の分野が一番難しく、家庭教育に対して行政がどうアクションをおこすか、その方策がなかなか見つからない。
- ✓ 昨今、授業参観をしても、親が後ろで喋っていてうるさくて授業の妨げになるような状況。
- ✓ 家庭教育の質をいかに上げるかが、今後に向けての大きな課題である。

■山内町長

- ✓ このような状況の中で、これから子どもを育てていくため、家庭教育が不足している部分を社会教育と学校教育で補うとなるとコストがかかる。

■岡田教育長

- ✓ 家庭教育の部分も学校教育で補う今の状況が続けば、学校側の負担がどんどん増えて、教師が疲弊し、教員のなり手不足がますます拡大するという悪循環となる。

■増田総務部長

- ✓ 資料の3ページに自治会連合会への回答案を示しているが、本日、様々な意見が出されたので、その内容を補足した回答としたい。

■門田委員

- ✓ 「子どもたちのために何かすべき」という思いはみんな同じだが、社会状況の大きな変化の中でみんな困っているんですよ」という内容も盛り込んでほしい。

■増田総務部長

- ✓ 時間もかなり経過した。本日の1回限りで結論が出る内容ではないので、「今後も検討を継続しつつ、お互いにできる限りの対応をしていきましょう」という内容でお返しするというにしたい。

■長谷川委員長

- ✓ 公民館、博物館、図書館が取り組んでいる社会教育活動について、その内容はとてもよいということは、自治会連合会もよく理解してくれていると思う。
- ✓ 単位自治会だとか連合会とか役場とか、そういう考え方ではなく、行政、地域が両輪となって、子どもたちの目線で、子どもたちのためにやらなければならない部分をそれぞれ取り組むことが必要だと思う。

■増田総務部長

- ✓ 単位自治会では解決できない課題等もあるので、単位自治会の目線ではなく自治会連合会として、町全体の連合会として議論をして頂く。
- ✓ 行政側も、戸惑いを持ちながら取り組みを進めており、教育委員会の社会教育、民生部も様々な取り組みを行っているが情報共有や共通理解が不足している部分もある。改めて、連合会の視点としてお話をさせて頂く機会を作ってほしい旨の内容を回答案に盛り込みたい。
- ✓ 今後も今回と同様のテーマで意見交換する機会を設けさせて頂きたい。

4 閉会 午後5時50分